



# 「夏目漱石と“笑い”」



実は、正岡子規と連れ立って寄席を巡るほどの落語好きだった夏目漱石。『吾輩は猫である』や『坊ちゃん』などユーモアのある作品も、そうした“笑い”の素地の影響が感じられます。

今回は、漱石と“笑い”に注目した本を紹介します。

## 展示リスト

	書誌情報	資料番号	請求記号
1	『文人たちの寄席』 矢野 誠一／著 白水社 1997	315422022	910.26/ヤノ/
2	『夏目漱石青春の旅』 半藤 一利／編 文芸春秋 1994	314713926	910.268/ナツ/
3	『漱石文学のユーモア』 和田 利男／著 めるくまーる 1995	314733981	910.268/ナツ/
4	『漱石先生大いに笑う』 半藤 一利／著 講談社 1996	315024612	910.268/ナツ/
5	『夏目漱石博物館』 石崎 等／著 彰国社 1985	315048652	910.268/ナツ/
6	『漱石のユーモア』 張 建明／著 講談社 2001	315873208	910.268/ナツ/
7	『笑いのユートピア』 清水 孝純／著 翰林書房 2002	320058621	910.268/ナツ/
8	『文豪ナビ夏目漱石』 新潮文庫／編 新潮社 2004	320553910	910.268/ナツ/
9	『夏目漱石の世界』 平凡社 2015	323325795	910.268/ナツ/
10	『漱石作品論集成 第1巻』 桜楓社 1991	313458507	910.268/ナツ/1
11	『漱石作品論集成 第2巻』 桜楓社 1990	313459430	910.268/ナツ/2
12	『漱石作品論集成 第5巻』 桜楓社 1991	313453201	910.268/ナツ/5
13	『米朝落語全集 第8巻』 桂 米朝／著 創元社 2014	322033507	913.7/カツ/8
14	『日本の名随筆 22』 作品社 1984	313935348	914.6/ニホ/22
15	『新選名著複刻全集近代文学館 [10-1]』 日本近代文学館 1970	316437417	918.6/シン/10-1
16	『新選名著複刻全集近代文学館 [10-2]』 日本近代文学館 1970	316437425	918.6/シン/10-2
17	『新選名著複刻全集近代文学館 [10-3]』 日本近代文学館 1970	316437433	918.6/シン/10-3
18	『精選名著複刻全集近代文学館 9』 ほるぷ出版 1973	326522034	918.6/セイ/9
19	『新日本古典文学大系 6』 岩波書店 2006	320731201	918/シン/6
20	『直筆で読む「坊っちゃん」』 夏目 漱石／著 集英社 2007	321027708	F/ナツ/
21	『坊っちゃん』 夏目 漱石／作 岩波書店 1985	311722219	シ5/10-3/
22	『虞美人草』 夏目 漱石／作 岩波書店 1984	311722235	シ5/10-5/
23	『三四郎』 夏目 漱石／作 岩波書店 1990	316274646	シ5/10-6/
24	『硝子戸の中』 夏目 漱石／作 岩波書店 1979	311722300	シ5/11-2/
25	『現代語で読む坊っちゃん』 夏目 漱石／作 理論社 2012	322156969	ヤF/ナツ/
26	『吾輩は猫である』 夏目 漱石／著 新潮社 2003	323094888	ヤF/ナツ/
27	『草枕』 夏目 漱石／[著] 講談社 1979	311103899	9/K5/410

このほかにも、夏目漱石の作家研究についての図書は請求記号「910.268/ナツ」（閲覧室：棚番号 27）に、落語家については「779.1」（棚番号 25）、落語集は「913.7」（棚番号 28）、漱石の著作は『漱石全集』「918.68/ナツ」（棚番号 30）等にありま。棚にない図書は調査相談カウンターにてお尋ねください。

## 漱石の“笑い”への関心がわかる図書

### 『三四郎』 夏目 漱石／作

作中で登場人物に「(三代目柳家) 小さんは天才である。あんな芸術家は滅多に出るものじゃない。」  
「(三代目三遊亭) 円遊も旨い。」と語らせている、漱石の落語好きが垣間見える作品。主人公の友人、与次郎の性格は豪胆かつ愛嬌があり、三四郎とのやり取りがユーモラスです。

### 『漱石文学のユーモア』 和田 利男／著

『吾輩は猫である』『坊ちゃん』『三四郎』など、漱石の初期作品のユーモアを分析し、論じた本。  
「負け惜しみのユーモア」「食欲のユーモア」等、ユーモアの種類で分類しているのも面白いです。

# 「夏目漱石と和歌山」

夏目漱石は、1911（明治44）年8月、大阪朝日新聞が主催する講演会に招かれて、和歌山市に2日間滞在しました。

展示リスト		書誌情報	資料番号	請求記号
1	『旅する漱石先生』 牧村 健一郎／著 小学館 2011		321758153	910.268/ナツ/
2	『漱石作品論集成 第9巻』 桜楓社 1991		313453540	910.268/ナツ/9
3	『ジャーナリスト漱石発言集』 夏目 漱石／[著] 朝日新聞社 2007		321036261	914.6/ナツ/
4	『私の個人主義ほか』 夏目 漱石／[著] 中央公論新社 2001		321882599	914.6/ナツ/
5	『漱石全集 第20巻』 夏目 金之助／著 岩波書店 1996		316393545	918.68/ナツ/20
6	『漱石全集 第27巻』 夏目 金之助／著 岩波書店 1997		316393610	918.68/ナツ/27
7	『和歌山県史 近現代 1』 和歌山県史編さん委員会／編集 和歌山県 1989		313585069	A12//71-6
8	『熊楠と漱石』 岩渕 幸喜／著 [岩渕 幸喜] 2011		316426428	A18.3/M6/153
9	『楚人冠』 小林 康達／著 現代書館 2012		326725421	A18.3/S59/2
10	『文学の旅 10』 「文学の旅」編集室／編 千趣会 1972		311487961	A52//14
11	『野田宇太郎文学散歩 第19巻』 野田 宇太郎／著 文一総合出版 1977		311487888	A52//2(2)
12	『大阪文学散歩 2』 関西文学散歩の会／編 関西書院 1981		311488134	A52//28
13	『紀伊半島をめぐる文人たち』 半田 美永／著 ゆのき書房 1987		313615825	A52//32
14	『和歌山県近代文学史稿』 半田 美永／著 [皇学館大学] 1996		316108752	A52//49
15	『紀伊半島近代文学事典』 浦西 和彦／編 和泉書院 2002		316122902	A52//53
16	『文人たちの紀伊半島』 半田 美永／著 皇学館出版部 2005		316199165	A52//57
17	『和歌の浦』 藤本 清二郎／共編 和泉書院 1993		311048102	A81/10/62
18	『和歌の浦百景』 藤本 清二郎／編著 東方出版 1993		326501111	A81/10/63
19	『写真にみるあのころの和歌山』 和歌山市立博物館／編 和歌山市教育委員会 2011		326724804	A81/10/85
20	『城下町和歌山夜ばなし』 三尾 功／著 宇治書店 2011		316427673	A81/10/87
21	『名勝和歌の浦』 和歌山県文化遺産活用活性化委員会／編 和歌山県文化遺産活用活性化委員会 2012		326519857	A81/10/92
22	『行人』 夏目 漱石／著 岩波書店 1970		311722284	シ5/11-0/
23	『漱石文明論集』 [夏目 漱石／著] 岩波書店 1986		311722383	シ5/11-10/

## 【漱石の和歌山滞在を記した図書】

1911年8月14日、快晴の和歌山に漱石は南海鉄道でやってきました。

宿泊先である和歌浦を訪れ、エレベータで玉津島神社の背後にある奠供山（てんぐさん）にのぼり、その後、紀三井寺へ向かっています。翌15日には、新和歌浦遊園地・東照宮・片男波に立ち寄り、昼から県議会議事堂（現在の和歌山中央郵便局付近）で「現代日本の開花」と題して講演を行いました。

この2日間の漱石の足跡を、『漱石全集』（岩波書店）の第20巻にある日記で知ることができます。また、漱石の小説『行人』にも、和歌山での2日間を題材にしている場面が出てきます。今回の展示図書から、漱石が見た和歌山を実感してください。